

南区支え合いのしくみづくり通信

発行：令和3年3月21日(日)
編集：南区支え合いのしくみづくり推進員
事務局：南区社会福祉協議会
TEL 025-373-3223
新潟市南区上下諏訪木817-1

～南区支え合いのしくみづくりフォーラムを開催しました～

1月24日(日)、午後1時30分から3時30分、白根学習館ラスベックホールを会場に支え合いのしくみづくりフォーラムを開催しました。南区五十嵐雅樹区長より主催者を代表して挨拶があり、その後、第1部は基調講演、第2部はパネルディスカッションの2部構成で進行し、南区社会福祉協議会田中清彦会長の閉会の挨拶で全日程を終了しました。(主催：新潟市、企画・運営：南区支え合いのしくみづくり推進員、協力：南区社会福祉協議会)

第1部の基調講演では、新潟医療福祉大学社会福祉学部准教授の青木茂先生から「コロナ禍における福祉活動」と題して、他地域で取り組んでいる「きずなを深める7つの実践例」をはじめ、サロンなどを行う際の注意点、見守り・訪問の注意点、接触せずにつながり続ける方法についてご講演をいただきました。(4頁の「コロナ禍における福祉活動のヒント」をご覧ください。)

第2部のパネルディスカッションでは、南区内3団体の活動の取組みについてご発表をいただきました。(下記の発表趣旨をご覧ください。)

青木先生からは、小林地区の日頃の活動は、民生委員や近所の若い人も自主的に手助けしてくれている、お助け隊ができたから近所の助け合いはいらないということではなく、昔ながらの支え合いを残しつつ上乗せしていくことが大切。元気な高齢者は支え手になってもらう、老人クラブのメンバー加入は大事な宝である。庄瀬地区の多職種と地域住民との連携で、口腔ケア啓発冊子と歯と骨に良い元気弁当の取組みには小学生を巻き込んでいく。子どもたちを巻き込むと親も参加する。小さいうちから福祉を伝え、巻き込んでいく視点が素晴らしい。大通西自治会の取組みは、顔が見える自治会の取組み。健康は共通の課題で、健康維持のウォーキングは、取組みのハードルを下げて住民に訴えかけている。3団体の共通は、人材不足、若い人たちを地域の活動に問題提起を含めて巻き込み協働していくことが大事であるとまとめられました。



青木 茂氏



青木 智子氏

佐久間栄子氏

西山 ゆき氏

西野 伸治氏

長谷川曹一氏

小林コミュニティ協議会

お助け隊こばやしの取組み

小林コミュニティ協議会には5つの理念があり、お互いに助け合い、健康で安心・安全の村を目標の一つとして活動している。その理念のもと、令和2年7月から住民同士の支え合いのしくみづくり「お助け隊こばやし」をスタートさせた。

これまでの取組みとして、子育て世代が安心して働くことのできるしくみとして学童保育を設置運営している。高齢者を対象とした地域の茶の間、昼食会、自治会長らによる見守り活動を実施している。

住民同士の生活支援については5年前から着手し、令和元年より立上げ準備を開始、令和2年1月からスタッフ募集、自治会長協議会で説明を行った。地区の交通アクセスが十分でなく、足の確保、移動支援が喫緊の課題で、2月には6月に開催予定の福祉有償運送講習会の受講について準備したが、コロナ感染拡大防止により中止となった。7月に新潟市訪問型生活支援事業補助金の申請手続きを行い、活動に必要な物品、スタッフジャンパーなどの整備を行った。具体的な作業から問題点と対策を考察。スタッフの確保としては、高齢者でも元気な方は大勢いるので、できることを手助けし、支える側になってもらうと3老人会に説明し、3名から登録していただいた。手助けを必要とする高齢者等が声を上げる場所の一つとしてお助け隊を機能させていきたい。

【これからの取組み】

今後は車を活用した買い物同行やお出かけ、通院時の移動支援などを近隣地域と協力し合って検討していく。

庄瀬地域コミュニティ協議会

食べる・しゃべる・笑う元気弁当事業

コロナ禍で地域事業が自粛や中止になる中、健康への影響が懸念される今だからこそ、健康への取り組みの必要性を考えた。平成30年から地域包括支援センターしろね南を中心として開催されている「元気会議」では、白南中学校エリアの認知機能と口腔ケアの関係性に着目し、口腔ケアを啓発していく中で庄瀬コミ協と元気会議の思いがマッチし、本事業に結び付いた。

「口腔ケア啓発冊子の発行」は吉沢医院、佐久間歯科クリニック、しなの園、南区社会福祉協議会、白南白根第一圏域支え合いのしくみづくり推進員、地域包括支援センターしろね南からなる専門職チームで監修、作成した。地域内全戸配布し、若い世代にも読んでもらうために小学校の協力を得て保護者向けに配布した。

「元気弁当」は佐久間歯科医としなの園管理栄養士の協力で家庭でもできるメニューを考案し、調理はしなのがわ工房ままやに依頼し、12月5日にテイクアウト式の試食会を実施した。食の面から健康へのアプローチは多世代の関心事。アンケートからも事業に対する期待が寄せられている。

【これからの取組み】

事業を継続して実施していくための人材確保、多世代や家族ぐるみの取組みには学校や保育園との連携が有効であること、お弁当提供をしているままやの活動周知、コロナ収束後には食堂形式で口腔ケアの大切さとセットで取り組んでいきたい。

大通西自治会

自治会が地域にとって必要な存在であり続ける為に…ふれあいねっとの取組み

自治会が地域にとって必要な存在であり続けるためには、住民の高齢化に向き合っていかなければと考えた。「お互いに見守り、助け合える地域づくり」を進めるために令和2年2月、自治会の部会として「ふれあいねっと」創設を表明し、4月の総会で承認を得た。ふれあいねっとに取り組む理由として、今、高齢でも元気でられる方が多い。できることから始めていくときではないか。取組みの必要性を感じていた。

まず、自治会としての体制づくりとして、①高齢者が気軽に交流できる環境づくり ②継続していくために専門役員が先導すること(班長が毎年交代するため)が必要と考え、専門役員2名、班長2名が取り組む体制とした。

具体的な活動として、集会所が気軽に集まる場となるよう、車いすが必要な人が車いすのまま参加できるよう集会所の入り口にスロープを設置。南区社会福祉協議会の「ふれあいいきいきネットワーク事業」の補助金を申請し、見守り一人暮らしや日中独居高齢者、高齢者のみ世帯などの見守り(対象者5名)を実施。また、健康づくりのために日曜朝のラジオ体操、高齢者と親子が参加しやすいように多世代交流として「ふれあいウォーキング&お楽しみ会」を実施した。

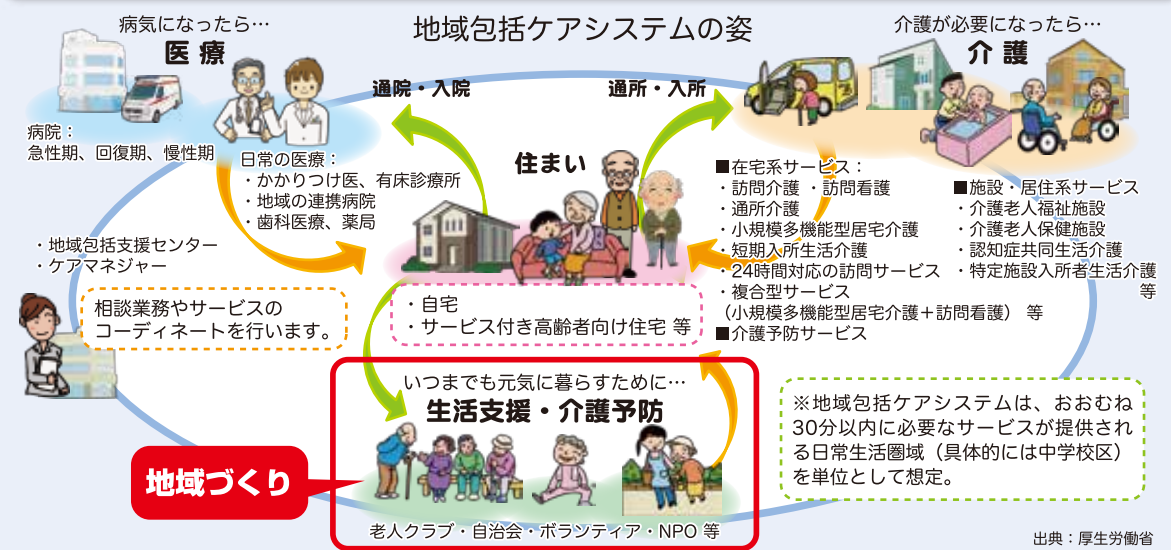
【これからの取組み】

活動していくための人材確保が必要で、自治会の活動を理解してもらうことが大事。見守り訪問は適度な距離感で定期的な訪問で、緩やかなつながりが感じられる地域を目指している。

地域包括ケアシステム構築の支え合い・助け合いを創っていきましょう

どなたも、住み慣れた地域で、住み慣れた自宅で最期まで暮らしたいと願っていると思います。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

南区内3つの日常生活圏域（第2層）に支え合いのしくみづくり会議（協議体）を設置し、支え合いのしくみづくり推進員（SC）が地域ごとの特性に応じた助け合いや支え合いのしくみづくりを進めています。※支え合いのしくみづくり推進員は、国でいう生活支援コーディネーターの新潟市独自の呼称です。



南区地域福祉アクションプラン (2021～2026年)

誰もが安心して暮らせる地域を目指して、次期計画が策定されました。

各地区において昨年7月～11月にかけて、懇談会や座談会で課題を整理し、推進目標と具体的な取組みについてまとめられました。

次期計画には、地区ごとに、地域の茶の間の活動促進、高齢者の活躍の場の創出、認知症の理解促進、8050問題への取組み、障がい者の理解と障がい者世帯への支援体制づくり、多世代交流の取組み、移動支援の取組みなど、支え合いのしくみづくりにスポットを当てた推進目標が掲げられています。

アクションプランの推進は、特定の人たちの計画ではありません。南区内にお住まいの一人おひとりに関わることです。自分の住む地域がどんな地域だったら安心して暮らせるでしょうか。できることを一緒に考え、参加し、取り組んでいきましょう。



コロナ禍における福祉活動のヒント (青木先生の基調講演資料より抜粋)

「いま」できる実践活動

- ①コミュニケーションをとる
 - 電話
 - 手を振り合う（窓越し、離れた距離）
- ②手紙や届け物でつながりをつくる
 - 届け物に手紙を添える
 - 布マスクを作り届ける
- ③会報等で情報を発信する
 - 自宅で行える介護予防について紹介

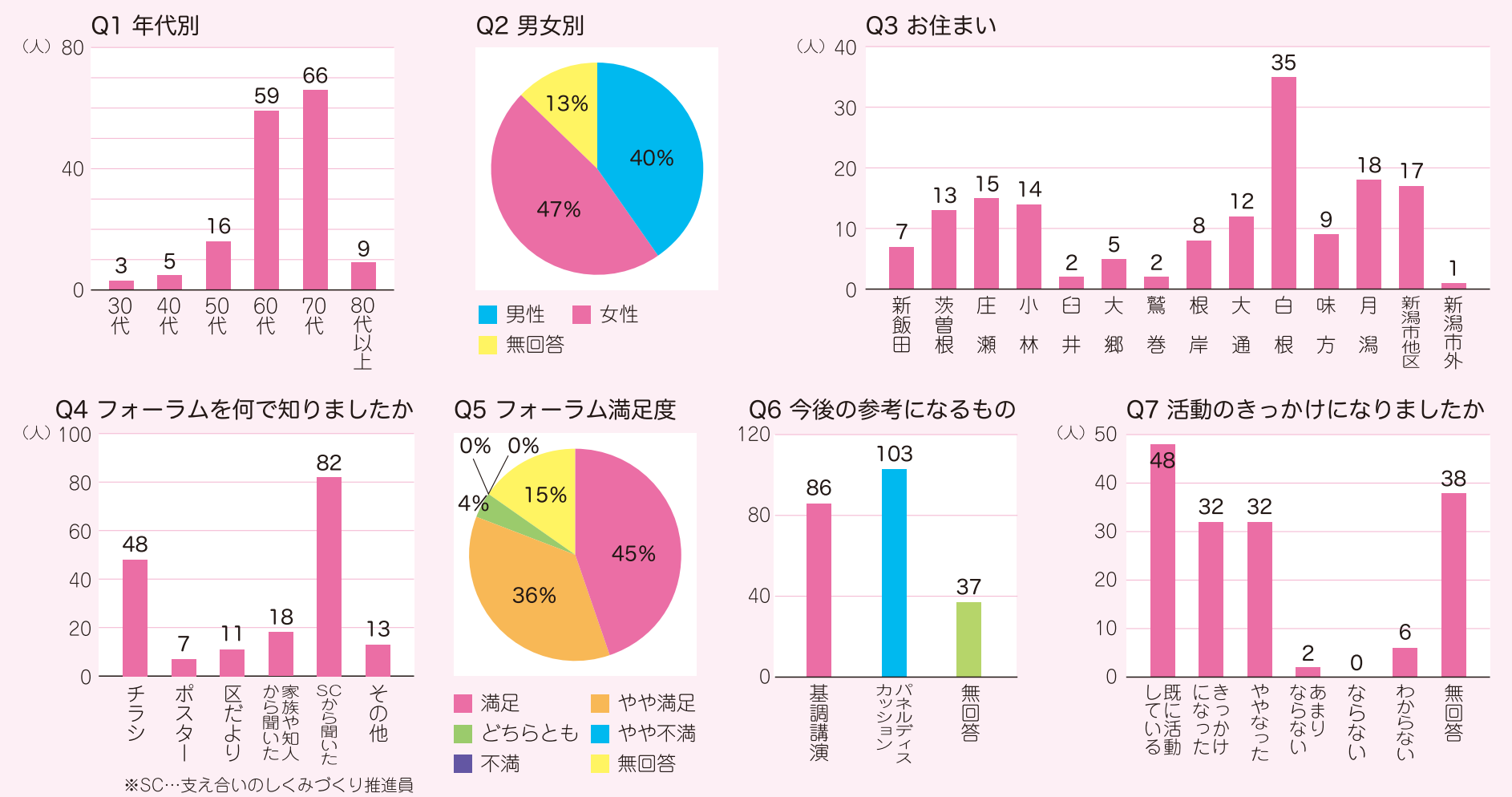
「これから」おすすめの実践
(新しい生活様式に気を付けながらの会合)

- ④安否確認のための訪問、短時間のおしゃべり
- ⑤手作り料理を届ける
- ⑥訪問ついでにちょっとしたお手伝い（ゴミ出しなど）

「接触せずにつながり続ける方法」

- ①贈り物を持って安否確認の訪問活動
- ②児童・生徒作成の「お元気ですかカード」
- ③体操の集まりが中止している場合、体操のDVDを贈る
- ④食事会ができない場合、お弁当のお届け
- ⑤外出を自粛し、情報が得られない場合、お役立ち情報の提供
- ⑥「声・映像・オンライン」でつながってみよう

南区支え合いのしくみづくりフォーラム アンケート結果 (参加者182名 回答数158)



*取り組んでみたい活動：高齢者の見守り、声掛け、買い物支援、食事提供、近所の雪のけ、若い世代と一緒にウォーキング、ラジオ体操、文化活動

*自由記述（感想・意見など）

- 小林地区のお助け隊、参考になりました。問題と対策を考察されていて良いと思う。
- 庄瀬コミ協の医療と食堂と様々なセッションが連合されていることが素晴らしい。
- 今後、助け合いや支え合い活動に関わりたい。
- 高齢になる不安があったが、少し安心することができた。
- もう少し、会場の方とのディスカッションができるよかった。
- 南区内で行政に頼らず、地域の人間が助け合い組織を立ち上げて活動されていることを知り、ありがたい。
- 地区によって温度差がある。全地区に広がるように行政、自治協など組織が連携して進めてほしい。協力します。
- 元気弁当事業は、健康づくりの推進につながるものなので、今後の活動に期待している。
- 小林地区のお助け隊の活動を手本にしたい。
- 自治会とその役員の意識改革が必要。大通西の活動がすごい！
- 専門職チームが後押しして実現させた取組み、チームワークは素晴らしい。
- 支え合いのしくみづくりに頼らず、ご近所さんとの関わりが大切だ。
- コロナ禍でもできることをを行い、前に進めていく力強さを感じた。無理せず、できることから参考にする。